

## 津波被害跡地に植栽したマツ類および広葉樹類の初期生育（Ⅱ）

### —大湊地区植栽試験地の植栽3年後までの成長経過—

#### 1 はじめに

東日本大震災津波で被災した防潮林再生の課題のうち、松くい虫抵抗性アカマツや広葉樹類の津波被害跡地での生育適性を明らかにするため、県内4ヶ所に植栽試験地を設置した。これまで、大湊地区植栽木の生存率について報告した。

今回は、大湊地区植栽木の植栽3年目までの成長経過を報告する。

#### 2 方法と結果

試験地は、沿岸北部の久慈市大湊地区の植栽試験地である。平成24年6月、400㎡（20m×20m）にアカマツほか9樹種12処理で400本を植栽した（詳細は既報のとおり）。

植栽木の成長は、根元径と樹高の測定により調査した。根元径は、地際部約1cm付近の直径を測定した。樹高は、根元から先端までの高さを測定した。先枯れや枝枯れの場合は、生残している最も高い位置を測定した。

#### 3 結果

##### (1) 直径成長

マツ類では、抵抗性アカマツコンテナ苗の成長が

良好であった（図1）。植栽翌年の秋には、他のマツ類普通苗（裸苗）の1.3倍程度になった。広葉樹類では、ケヤキの成長が良好で、次いでカシワの順であった。一方オオヤマザクラは、植栽年の秋までは良好であったが、それ以降、他の広葉樹に比べ、成長が少なかった。

##### (2) 樹高成長

マツ類では、直径成長同様、抵抗性アカマツコンテナ苗の成長が良好であった（図2）。広葉樹類でも、直径成長同様、ケヤキの成長が良好であり、オオヤマザクラは、植栽2年目以降成長が減少傾向であった。

ナラ類、クリおよびイタヤカエデは、植栽年の秋までに部分枯れ等により樹高成長が停滞または減少（枯れ下がり）したが、翌年以降、回復し、特にコナラとイタヤカエデは3年目で大きく樹高を増加させた。クリは、3年目でも部分枯れが生じており、樹高の伸びが少ない。

#### 4 成果の活用

松くい虫抵抗性アカマツは、コンテナ苗を使用することで、着実な成長を確保できる傾向がみられた。広葉樹類ではケヤキの成長が良好であった（図3、4）。

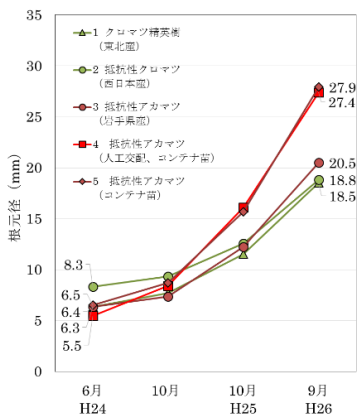


図1 根元径の推移

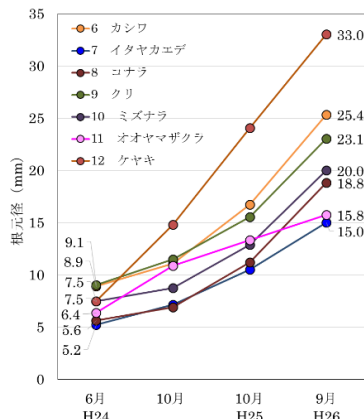


図3 ケヤキの生育状況 (H26.9)

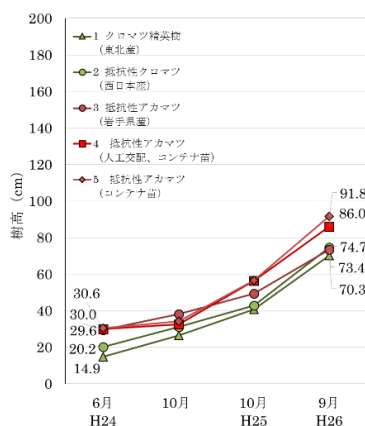


図2 樹高の推移

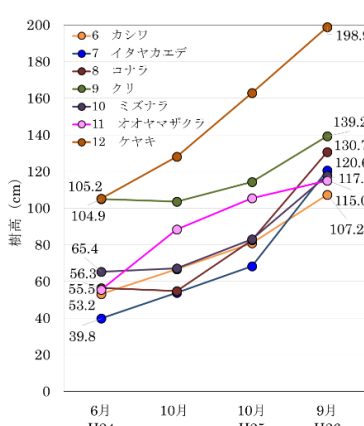


図4 抵抗性アカマツコンテナ苗の生育状況 (H26.9)

(担当 研究部 上席専門研究員 小岩俊行)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11  
岩手県林業技術センター  
ホームページアドレス <http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-697-1536  
FAX 019-697-1410